

患者さまおよび保護者のみなさまへ

当院は「本邦小児における降圧薬使用実態調査」に参加しています。

医療の向上のために患者さまの診療録（カルテ）情報を使用させていただくことがあります。ご同意いただけない方は担当医までお申し出ください。同意されないことをお申し出になられた場合でも、治療上の不利益を受けることは一切ありませんので安心ください。また、ご同意いただけない旨の申し出はいつでもできます。

【使用実態調査とは】

対象となるお薬が使われた患者さまの年齢や性別、お薬がどのように日常診療内で使用されたか、どのような効果や副作用があったかなどを調査するもので、新たな薬の投与や検査を受けていただくことはありません。



【この調査の目的】

日本で小児に対して使われているお薬の多くは、成人に対する効能・効果、用法・用量や外国のデータ等を参考に医師の判断で使用されています。降圧薬（血圧を下げるお薬）もその中の一つで、小児適応^{*1}を有するお薬はありませんでしたが、小児で多く使用されている4種類の降圧薬^{*2}の使用状況の調査し、2012年にこれら4種類の降圧薬においては小児適応を取得することができました。

この他にも、小児に対して多く使用される降圧薬として「カンデサルタン シレキセチル（商品名：プロプレス錠、カンデサルタン錠など）（以下、「本剤」と呼びます）」があります。日本小児循環器学会、日本小児腎臓病学会は本剤についても小児適応を取得することが必要と考え、今回、全国の医療機関で本剤の使用状況の調査することを計画しました。

本剤は血圧を下げる目的だけでなく心不全や腎臓病の治療薬としても使用されています。今回の調査では心不全や腎臓病の治療薬として本剤を使用している患者さまも対象となります。具体的に対象となる患者さまは、慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎、腎血管性疾患、先天性腎尿路奇形、慢性腎不全、急性腎不全、腎移植後、大動脈縮窄症、脳血管異常、副腎皮質疾患、腫瘍性疾患、先天性心疾患手術前、先天性心疾患手術後、拡張型心筋症、拘束型心筋症、肥大型心筋症、その他の心筋症、心筋炎後（慢性心筋炎）、薬剤性高血圧（薬剤名）、本態性高血圧症の患者さまです。

この調査で得られた結果は厚生労働省へ提出され、小児適応の取得のために使用されます。また、その結果は学会で発表されたり、論文として発表されたりすることがあります。

調査実施責任者：日本小児循環器学会理事長 安河内 聡
日本小児腎臓病学会理事長 飯島 一誠

ご意見、ご質問などがある場合は担当医または下記窓口まで問い合わせください。

調査に関する問い合わせ窓口 : TEL : 03-5763-5145

東邦大学医学部心血管先端統合講座 担当者名 佐地勉

個人情報に関する問い合わせ窓口 : TEL : 073-447-2300

和歌山県立医科大学附属病院 小児科 担当者名 島友子

*1：医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律という法律で小児に使用を認められていることをいいます。

*2：4種類の降圧薬「アムロジピンベシル酸塩（商品名：アムロジン、ノルバスクなど）、エナラプリルマレイン酸塩（商品名：レニベースなど）、バルサルタン（商品名：ディオバン）、リシノプリル水和物（商品名：ゼストリル、ロンゲスなど）」